



# 村小だより

令和3年2月12日発行

## 思いをつなぐ、児童も職員も

校長 鈴木 正美

立春が過ぎ、寒暖を繰り返しながらも、少しずつ「春」を感じる時節となりました。児童玄関脇の水槽では、12月に「命のリレー」として村上東中からいただいた鮭の発眼卵がふ化し、元気に育っています。水面まで浮上し、懸命に餌をとる様子が見られます。4月の放流まで、さらに元気にたくましくなるよう4年生が育てます。それを全校で見守っていきます。

さて、学校では、生活目標「感謝の気持ちを伝えよう」の下、次期リーダーとなる5年生の企画による様々な活動が始まっています。そして、そのフィナーレである「6年生を送る会」(3/2)を成功させるべく、各学年も準備を進めているところです。

こうして学校では、子どもたちは「感謝と引き継ぎ」に、教職員も、次につなぐための「今年度のまとめ」と「次年度の計画づくり」に本格的に入っていきます。

年度の締めくくり、変わらぬご支援、ご協力を、よろしくお願いいたします。

### <2/2全校朝会：校長講話から>

「節分」と言えば、「豆まき」ですよね。私の家でもやっていて、豆まきは私の役目です。大声で「鬼は外、福は内」と言いながら、各部屋・風呂・トイレ・裏小屋など、家中に煎った豆をまきます。そして、自分の年の数だけ、その豆を食べて今年一年の健康や安全を願っています。今一緒に住んでいない家族にも送ってやっています。皆さんの家ではどうでしょうか。

ところで、「節分」とはどんな日なのか。なぜ「豆まき」をするのか。覚えていますか。そんなこともわからないで、児童玄関に飾られた「大きな赤鬼」を見て楽しんだり、今日の給食に出る「福豆」を食べたりしたのでは、チョコちゃんに叱られてしまいそうなので、今年も「節分と豆まき」について確かめましょう。

「節分」は、春・夏・秋・冬の4つの季節ととても関係があります。暦の上で、各季節が始まる日を「立春」「立夏」「立秋」「立冬」と言いますが、この新しい季節になる前の日を「節分」と言うのです。つまり、「節分」とは、季節の分かれ目の日なのです。そして、「節分」は1年に4回あるのです。

でも、皆さんの家では、それぞれの節分に「豆まき」をしているのでしょうか。しないですよね。豆まきをするのは、「立春」前の2月の「節分」だけです。どうしてなのでしょう。

昔は「立春」から新しい年が始まっていたため、2月の「節分」はとても大切な節目の日だったのです。今で言うと大晦日にあたるわけなので、新年に福(幸せ)を呼ぶために、悪いことを起こすものをはらう様々な行事が行われるようになり、やがて、「節分」と言えば、2月の「節分」を言うようになったのだそうです。また、豆まきをするのは、昔は災害や病気など目に見えない恐ろしい出来事は鬼や悪魔のしわざであり、特に新しい年や季節の変わり目に鬼や悪魔がやってきやすいと考えられていたため、2月の「節分」に豆をまいて退治するようになったのだそうです。